# 令和元年度第 8 回青森市子ども会議
# （青森市子ども会議フォーラム 2019 FOR CHILDREN～心の声を大人たちへ～）
# 開催概要

**1　日　　時**　令和元年 11 月 16 日（土）　8 時 00 分～15 時 00 分

**2　場　　所**　青森市議会　議場、委員会室

**3　出 席 者**　子ども会議委員 18 名（欠席者 10 名）
子どもサポーター1 名、市長、事務局 15 名

**4　次　　第**　第一部　私たちからの意見提案（午前）

（1）開会
（2）市長あいさつ
（3）意見提案
（4）市長総括
（5）閉会

第二部　子ども会議とーくいべんと（午後）

（1）開会
（2）とーくいべんと
（3）とーくいべんとのまとめ
（4）閉会

**5　開催概要**

市では「青森市子どもの権利条例」において、毎年 11 月 20 日を「青森市子どもの権利の日」とし、この日にふさわしい活動を行うこととしています。子どもが意見を表明し市政に参加する機会、子どもと大人が子どもの権利について適切に学び、理解するための機会として「青森市子ども会議フォーラム」を、今年も市議会議場をお借りして開催します。

リハーサル

午前 8 時、皆でデザインしたお揃いのＴシャツを着用し、控え室である議会の委員会室に集合し、最終確認などを行った後、議場に入って第一部のリハーサルを行いました。

意見提案では交代しながら全員が登壇し発表を行うことから、その一連の流れを練習しました。演壇へ登壇する際の動きがスムーズにいかなかったため、登壇の順番を年齢順から発表順に変更することにしました。

続いて、委員会室へ移動し、第二部とーくいべんとのリハーサルを行いました。発表内容が観客に伝わるよう、大きな声で発表するよう心がけました。

そして 10 時 45 分、いよいよ青森市子ども会議フォーラム 2019 がスタートしました。

## 第一部　私たちからの意見提案

市長あいさつ

はじめに、子ども会議フォーラムの開催にあたって小野寺市長からあいさつがありました。あいさつでは、昨年度の子ども会議フォーラムで子ども会議委員から出された提案や意見に対する成果について、パネルを使用しながら説明しました。

＜昨年度の成果＞

・駅前周辺にある「ねぶたの家ワ・ラッセ」の案内板の英語表記が混在していたことから「Nebuta Museum Wa Rasse」に統一した。

・市民センターの一般開放日一覧を市 HP に掲載し、広く周知した。

・子ども会議委員が「うまい森、青いもりフェア」で、青森市観光大使 GMU と一緒にあおもり産品の PR を実施した。

最後に、「このように子ども会議委員の皆さんから頂いた意見は、様々な形で青森市のまちづくりに生かされています。自分のふるさと青森市のまちづくりに貢献するということが、実際に形になっていくことを楽しんでいただけるフォーラムになればと思います。皆さん頑張ってください。」と激励をもらいました。

まちづくりグループの発表

＜活動をはじめたきっかけ＞

昨年度は、地元の若者向けに新町商店街とその周辺のおすすめスポットをのせたパンフレットを製作し、商店街に足を運んでもらうきっかけづくりをしました。

話し合いの結果、今年度は、子どもの頃から新町商店街を身近に感じてもらい、大人になっても来てもらえる、親しみを持ってもらえるまちづくりを目指し、「新町商店街に子どもが親しみを持てるような魅力づくり」をテーマに調査研究活動を行うことにしました。

＜これまでの活動内容＞

○　商店街の活性化事例の調査

1 例目は、アートによって活気づいた商店街です。東京都世田谷区の下北沢一番商店街などでは、シャッターに絵を描くことでにぎやかな街並みを演出しました。街が一体となって取り組んだことで、お客さんや店主の意識に変化がもたらされ、最終的には歩くだけでも楽しい商店街が誕生しました。

2 例目は、福岡県北九州市で行われた「黒崎こども商店街」や川崎市こどもゆめパークで行われている「こどもゆめ横丁」です。これは、商店街などを利用して子どもが様々な仕事を体験し、実際にお給料をもらうイベントです。子どもたちは商店街に興味をもち、主体性や協調性を学ぶ機会になります。

これらの例を参考に、新町商店街を子どもや若者に人気のある地域にするためにはどうすればいいかについて考えてみました。

・郊外の大型商業施設に若者が流出している
・子どもの頃にあまり新町商店街に行っていない
・新町商店街に行く機会が少ない

などの課題があると考え、新町商店街に親しみを持ってもらえるような環境づくりや取組が必要で、それを自分たちで行いたいという意見を持ちました。このことから、新町商店街の良いところを皆さんにお知らせし、商店街に足を運んでもらうため、新町商店街の魅力を発見してもらうイベントを行うことにしました。

○　「あおもり街てく（味とショッピングコース）」に参加

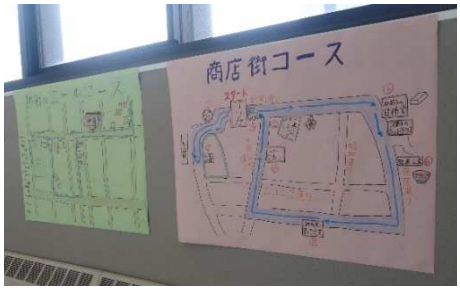
「あおもり街てく（味とショッピングコース）」に参加し、新町商店街の情報収集を行いました。新町商店街の歩道は、歩行者用と自転車用通路の間に、青森市自慢の水道水が飲める水飲み場や土偶のマスコットが設置されているなど、様々なことを知ることができました。

○　新町商店街振興組合理事　伊香佳子さん（電器屋 IKO）へインタビュー

電器屋 IKO を訪問し、伊香佳子さんへ新町商店街の現状についてお話をうかがいました。伊香さんはインタビューの中で、新町商店街での取組を教えてくださいました。新町商店街では、「一店逸品運動」という取組を行っていて各店舗の自慢の商品をまとめたパンフレットを毎年製作しているそうです。「新町に若い人が増えて活気づくとうれしい」という伊香さんの思いもお聞きすることができました。

○　子ども会議まち歩きイベント「あおもりぷらぷらまち探検 in 新町」の開催

「商店街コース」「神社ァエールコース」の 2 つのコースに分かれて行いました。市内の小学生 16 人と幼稚園生 2 人が集まってくれました。




「商店街コース」では、駅前交番前のねぶたのマンホール、駅前公園、駅前庁舎前モニュメント、パサージュ広場、甘精堂・シュトラウス、虹色工房 1chi、乾物屋 あきやま、ジェラート ナチュレを訪れました。人気だった場所は、パサージュ広場や虹色工房でした。

「神社ァエールコース」コースでは、駅前交番前のねぶたのマンホール、駅前公園、パサージュ広場、縄文土器のモニュメント、赤い林檎、善知鳥神社、虹色工房 1chi、駅前庁舎前モニュメントを訪れました。善知鳥神社や赤い林檎が人気でした。

イベントでのアンケートの結果、「イベントを通じてまた新町に来たい」と思った人が多かったことから、子どもが集まるイベントを継続的に行うことが、新町商店街を身近に感じ、親しみを持ってもらうきっかけとなり、商店街の活性化に効果があるのではないかと考えました。これらをふまえて、次の意見提案をしたいと思います。

＜質問内容＞

① 新町商店街で子どもが集まるイベントが増えてほしいと考えています。新町商店街のイベントで子どもが参加できるものは年間どれくらいありますか。また、そのイベントの周知はどのように行っているか教えてください。

② 新町地区の魅力をもっと多くの人にお知らせするような取組が必要だと感じましたが、市ではどのように考えているか教えてください。

③ 空き店舗の利活用のアイディアとして、店舗のシャッターにインスタ映えしそうなアート作品を描き、注目されれば集客効果があると私たちは考えましたが、市では空き店舗の利活用のため、どのような取組を行っているか教えてください。

市からの回答

（小野寺市長）

③の質問について、新町商店街の空き地・空き店舗率は、令和元年 10 月時点で 8.9%となっており、5 年前の 10.6%に比べると空き店舗は減ってきていますが、シャッターが閉じたお店があると活気がないと感じるため、空き店舗を少なくしていく取組を続けています。

皆さんに見つけていただいた「青森フィールドスタディ」では、まち歩きのプロジェクトを大学生や高校生のお姉さんお兄さんにもしていただいています。青森工業高校の生徒さん 7 名が新町商店街にある大阪漆芸さんのシャッターを使って、シャッターアートをしたということは、広くニュースでも流れたところです。

さらに、商店街の空き店舗の 1 階でお店を出すときに、改修経費の一部を支援しているほか、空き店舗を使って新しい商売を始めようという人たちが、その店舗の使い方やお店の作り方を勉強する「リノベーションまちづくり推進事業」というものを始めました。

11 月 8 日に「リノベーションスクール」という合宿を行わせてもらって、22 名の大人の皆さんが 3 つのグループに分かれてリノベーションの達人を 4 名お招きして、その達人の指導で青森の空き店舗を変えたいというプレゼンテーションをしてもらいました。空き店舗のオーナーさん、大家さんも入れて、100 人の方に来ていただいて、次の 3 つの提案をしてもらいました。

・青森の台所になるバルという形式のスペインのレストラン
・車に台所・キッチンを積んでコーヒーやケーキを提供できるキッチンカーを使ったカフェ
・ストリートダンスができるスタジオ

この提案がオーナーさん大家さんのご協力を得て実現できるよう、我々青森市も応援していきたいと思っています。このように皆さんから提案いただいたシャッターアートのほかにも、市内の商店街、お店がより元気になるような取組を一生懸命進めていきますので、子ども会議委員の皆さんも楽しいアイディアを教えてください。

（経済部　木村部長）

①の質問について、年間で 10 種類程度開催されているイベントのほとんどが、大人だけではなく子どもも参加できるイベントとなっています。この中で、子どもが参加できる主なイベントは次のとおりです。

・5 月：ねぶたとよさこいがコラボする「あおもり春フィスティバル」
・8 月：ものづくり、アート、フード、音楽、お祭りが一体となった「AOMORI 楽市楽座」
　　よさこい、ダンスなどが楽しめる「しんまちふれあい市場」
・10 月：ハロウィン企画「しんまちハロウィンストリート」　※今年は台風 19 号で中止
・11 月：様々な職業体験ができる子どもおしごとエキスポ「オムレッツ！あおもり」
・12 月：子どもたちが可愛いサンタとなって、町行く人とじゃんけんをしてお菓子やりんごをプレゼントする「しんまちじゃんけんサンタ」

このように、1 年を通じて子どもが参加きるイベントが行われています。これらのイベントを周知するため、新町商店街振興組合において、組合のホームページや、テレビ、ラジオ、新聞などでお知らせしているほか、市においても広報あおもりや市のホームページに掲載しているところです。特に「しんまちふれあい広場」や「しんまちハロウィンストリート」については、市内小学校の全児童にチラシを配付しお知らせしているところですが、今後は中学校へのポスターの掲示を検討するなど、より多くの子どもたちにこれらのイベントを知ってもらえるよう工夫していきたいと考えておりますので、ぜひ子ども会議委員の皆さんも足を運んでいただければと思います。

次に②の質問について、新町商店街では「一店逸品運動」として、毎年店主のこだわり・おすすめの品を掲載した逸品カタログを製作し、参加しているお店や周辺のホテルなどに設置しているほか、のぼりや新町商店街のホームページなどにより、1 年を通じておすすめの品を PR しています。

さらに、商店街の店主やスタッフがツアーガイドとなって、まち歩きをしながら各お店のこだわりやおすすめ品を含めた商店街の魅力を紹介する「逸品お店回りツアー」を年 6 回開催するなど、商店街のファン作りやお店のイメージアップにつなげるための取組を行っています。より多くの方に新町商店街の魅力を知ってもらえるよう、今後さらに広報あおもりや市のホームページ、SNS などを活用しながら商店街の皆さんと共に情報発信をしていきたいと思います。

最後に子ども会議委員の皆さんにお願いがあります。今回委員の皆さんは自ら足を運び新町商店街の良さ、魅力を発見したと思いますが、今後おしゃれなインスタ映えするスポットなどを、学校の仲間や友達に SNS やロコミでどんどん広げていただければ、新町商店街がさらに元気になりますので、ぜひ皆さんで応援してください。

＜回答を受けての感想（子ども会議委員）＞

様々な取組を教えていただいて、新町は本当に子どもとか若者にとって魅力的な場所だなと改めて思いました。私たちとしては、先程お話にあったようなお仕事体験とか、子ども自身が学びながら、活動を通して新町の良さに気づけるイベントが魅力的だと感じているので、そのようなイベントがもっと増えたら素敵だなと思います。

最後になりますが、経済部長さんから新町のおすすめスポットをたくさん友達に勧めてほしいというお願いがありましたので、これからも活動を通して新町の魅力的に思ったものや面白い話をたくさん広める活動をしていきたいと思います。

運動グループの発表

＜活動をはじめたきっかけ＞

青森市をより良いまちにするため、まちの問題を話し合い、

・子どもが体を動かして遊べる環境が少ない。あったとしても認知されていない。
・まわりに運動する人が少なく、遊ぼうと思っても一緒に遊ぶ仲間がいない。

という 2 つの意見が出ました。これらをふまえ、私たちのグループでは「運動」をテーマに、「子どもが体を動かして楽しく遊べるまち」を目指し、調査研究活動を行うことにしました。

＜これまでの活動内容＞

○　市の公園河川課への取材活動

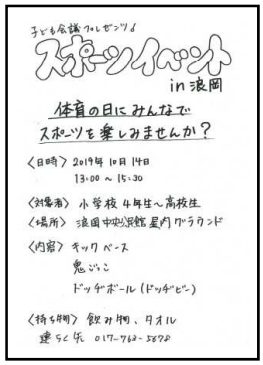
青森市には遊べる環境が本当に少ないのかを調査するため、公園河川課へ取材を行いました。青森市内には 139 の公園があるということや、セントラルパークや合浦公園のような大きな公園があること、設置されている遊具には年齢制限があるものの公園自体には年齢制限がないことなどを知り、公園は年齢を問わずおもいきり体を動かすことができる環境だと思いました。

○　「ワッツカフェ」を訪問

運動する子どもが少ないのは、スポーツに興味のある子どもが少ないからではないかと考え、子どもがスポーツに興味を持てそうな市の取組「ワッツカフェ」が開催されていることを知り、カフェを訪問してみました。カフェでは、青森ワッツ応援用のうちわを作るワークショップが行われていました。青森ワッツの選手と直接お話をした後、握手をしてもらいました。バスケに縁がなかった人もバスケが好きになれる、和やかな場所だと思いました。ワッツカフェを通して、プロスポーツ選手とふれあうことは、今まで縁がなかったスポーツに興味を持てるいい機会だと思いました。

○　子ども会議スポーツイベント「体育の日にenjoy sports in 浪岡」の開催

室内でも屋外スポーツがおもいきり楽しめ、子どもでも簡単に予約ができた「青森市浪岡中央公民館」の屋内グラウンドで、体育の日にイベントを行いました。小・中学生を対象に、キックベース・ドッヂボール・おにごっこの 3 つを行うことにしました。できるだけイベントに参加してもらえるよう、イベントの情報を広報あおもりへのせたり、会場近隣の浪岡地区の小・中学校にチラシを配ったり、知り合いに声をかけたりして人を集めました。イベントには 21 人の人が集まってくれました。参加者にご協力いただいたアンケートにより、次のことを知ることができました。




・「これからも体を動かして遊んでみようと思いますか？」という質問に対し、参加者のほぼ全員である 20 人から「思う」と回答があったことから、体を動かすきっかけづくりに対し、イベントはある程度効果があったこと

・「冬にからだを動かして遊ぶとしたら、どのようなことをして遊ぶか？」という質問に対し、雪合戦や雪だるまなど、雪を使い屋外で遊んでいる子どもが多かったこと

・「室内で体を動かして遊べる施設が少ないと思いますか？」という質問に対し、参加者の約半分が少ないと回答し、そのうち、「どんな施設などがあったらいいか？」という質問については、「自由に広く遊べる施設」、「アスレチックなどいろいろ遊べるところ」などの意見があったこと

これまでの活動結果をまとめると、市でも様々な取組を行っていることや、市内には体を動かすことができる公園や施設が多くあるが、それらがあまり認知されていないことがわかりました。

私たちは現在、これまでの調査結果をまとめた「子どものためのあそび場まっぷ」を製作しており、体を動かすことができる場所の周知や体を動かすきっかけづくりに役立てたいと考えています。以上のことをふまえ、「子どもが体を動かして楽しく遊べるまち」のために、私たちが質問したいことは次の 3 つです。

＜質問内容＞

① ワッツカフェなどの取組は、子どもが体を動かして遊ぶきっかけづくりにつながるいい取組だと感じたので、取組をもっと周知してほしいと考えています。市では、どのような方法で周知しているか教えてほしいです。

② プロスポーツ選手と一緒にプレイする機会のような、様々なスポーツの楽しさを知ることができる取組があれば、子どもが体を動かすきっかけにもつながると考えています。そのような取組を行う考えはあるか教えてほしいです。

③ 青森市がもっとスポーツが盛んなまちになれば、体を動かす子どもも増えていくと考えています。スポーツの推進にあたって、市はどのような取組を行っているか教えてほしいです。

市からの回答

（小野寺市長）

③の質問について、市では、スポーツ人口の増加、スポーツを通じた交流人口の増加を目指してスポーツの推進に取り組んでいます。具体的に３つご紹介します。

（１）スポーツを楽しめる環境づくり

卓球大会や青森マラソンを開催するほか、ラグビー教室、バドミントン教室なども開催しています。

（２）市民がスポーツに関心を持ち、スポーツを通じて交流する人を増やすための取組

来年開かれる東京オリンピックパラリンピックへの出場を目指すタジキスタン共和国の柔道選手や、箱根駅伝への出場を目指す明治大学競走部の皆さんが、青森市で合宿をしました。この時には、市内の小学生、高校生などとの交流を通じて、トップレベルの選手と子どもたちがふれあう機会もたくさん作ることができました。

（３）スポーツ指導者の知識の向上、選手の競技力をアップさせるための取組

スポーツを通じた科学、それから指導法を身につける「スポーツ医科学講座」を開催しています。また、高等学校のカーリングは青森で選手権大会、全国大会が開かれますが、この時に市内の小学生、中学生へのカーリング教室を開催し、ジュニア層の選手の強化を図っています。

また、新しい取組として来年４月 19 日、青森市ではじめてのフルマラソン大会「あおもり桜マラソン大会」を開催する準備を進めています。青森市の海、山、桜の魅力を満喫できるコースになる予定です。さらに、陸奥湾沿岸の８市町村が連携して、陸奥湾を周遊するサイクリングコースの設定の準備も始めています。

こうした様々な取組で、スポーツを通じて青森市に来てくださる方を増やし、そして市民の皆さんがスポーツを楽しんでいただける環境を整えていきますので、ぜひ皆さんも学校で、そして地域の公園でスポーツを楽しんでください。

（経済部　百田理事）

①の質問について、市ではスポーツ観戦やスポーツイベントへの参加などにより観光客を誘客するスポーツツーリズムの推進、地元チームへの支援など、スポーツを通じた地域の活性化を目指して、行政、観光、スポーツ、大学などの 25 団体で構成する「スポーツコミッション青森」を今年３月に設立しました。

この「スポーツコミッション青森」では、プロバスケットボールチーム「青森ワッツ」と、サッカークラブ「ラインメール青森 FC」への支援に取り組んでおり、チームを知っていただくと共に、選手との交流を通じて試合観戦のきっかけにつなげるため、駅前スクエアにおいて、「ワッツカフェ」や「ラインメールカフェ」を開催しています。軽食やコーヒーなどの販売のほか、チームを応援するうちわや缶バッジ作りをするワークショップ、選手と市長のトークショー、試合情

報の発信などを行っており、今年度は合計5回、14日間にわたり開催しました。

カフェの開催は、新聞・テレビなどの報道機関に取材・報道をお願いしているほか、市のテレビ広報、ラジオ広報、公式Facebookや庁舎などでのチラシ掲示、各チームの公式SNSなどを活用し、市民の皆さんに広く周知しています。カフェの様子は青森ケーブルテレビでの放送や、東奥日報などの各新聞、各テレビ局のニュースや情報番組に取り上げられており、12月21日には、カフェの様子を含めた市のスポーツを通じたまちづくりについて、青森放送によりテレビ放送が予定されています。ぜひ子ども会議委員の皆さんもご覧いただき、カフェの実施についてお友達に紹介してください。今後もより多くの方にカフェに立ち寄っていただけるよう、楽しめる企画作りや効果的な周知に取り組んでいきます。

②の質問について、先程お話しました「スポーツコミッション青森」では、選手と直接ふれあい、スポーツをする楽しさや、夢を実現することの体験談を聞くことにより、スポーツへの関心の向上や、スポーツを始めるきっかけにつなげるため、小・中学校を対象に「青森ワッツ」や「ラインメール青森FC」の選手による学校訪問も実施しています。

「青森ワッツ」の学校訪問では、佃小学校のミニバスケットボール部を訪問し、部員の皆さんとドリブル、パスなどの基礎練習や、ミニゲームを行いました。佐野太一選手と宮本滉希選手のユーモアを交えた指導により、バスケットを楽しみながら学んだだけではなく、普段プレイで悩んでいることなどの質問に真剣に答えてくれた2人の選手の姿に、部員の皆さんはすっかり両選手のファンになった様子でした。

「ラインメール青森FC」の学校訪問では、浜田小学校を訪問し、4年生の皆さんに「夢を実現するために努力したこと」をテーマに、授業を行っています。浜田幸織選手から、サッカー選手になるために苦手な練習や勉強から逃げずに取り組んだことや、サッカー選手になった今もJリーグを目指すという夢を持っていることなどの話を聞いた皆さんからは、夢を実現するため強く願い、努力することの大切さを学ぶことができた、との声をいただきました。

今後も各チームと協力しながら、子どもたちがスポーツ選手とふれあう機会を作っていきます。

＜回答を受けての感想（子ども会議委員）＞

市でも大規模な取組を様々行っていることがわかり、とても参考になりました。私たちが参加できる活動も行われていることを知ることができたので、友人を誘って参加してみたいと思います。小学生の小さな子どもが冬場に遊べる施設が不足しているという声が多かったので、幼い頃から体を動かす機会を作るためにも、市でも検討していただければ嬉しいです。

市長総括

子ども会議委員の皆さん、本当に素晴らしい発表をしてもらいました。私が凄いなと思ったのは、両チームが自分で調べるだけではなく、行動してみるということが発表の中に含まれていたことです。

例えば、まちづくりグループでは、「あおもりぷらぷらまち探検」ということで、実際にまちに繰り出してイベントを行い、その感想をアンケート調査した、という取組がありました。同じく運動グループでも体育の日に浪岡中央公民館で「体育の日に enjoy sports in 浪岡」というプロジェクトを、実際に皆で声をかけてお友達に集まってもらって、キックベースやドッジボール、おにごっこなどもしたという発表もありました。やはり実際に行動するのとしないのとでは、その意見の強さも全然違います。とても素敵な取組をしていただいたことに、心から感謝いたします。

いつも市議会の先生は私より年上のことが多いので、非常に緊張する場ですが、小学校、中学校、高校生の皆さんの笑顔溢れる素敵な発表になったことに本当に嬉しく思うことを添えて、私の感想総括とさせていただきます。本当にありがとうございました。

その後、昼休憩をはさみ、議場から委員会室へ場所を移動し、「第二部　子ども会議とーくいべんと」が行われました。

## 第二部　子ども会議とーくいべんと

「ある兄妹の『？（はてな)』な１日」と題し、兄が学校で感じた出来事、妹が家庭で感じた出来事をそれぞれ手作りの人形を使った「読み聞かせ」により発表した後、意見交換を行いました。コーディネーターは、青森市子どもの権利擁護委員の沼田徹委員、小林央美委員、関谷道夫委員が務めました

**テーマ①　学校の「？（はてな)」(兄が学校で感じた出来事)**

＜発表概要＞
- 校則でカイロを持ってくるのを禁止しているのはなぜ？
- 冬場、半袖短パンで体育の授業を行うのはなぜ？
- 連帯責任で校庭を走らされるのは必要なこと？

発表後は、沼田委員が先生側、子ども会議委員が子ども側の立場となり、それぞれの立場から意見交換を行いました。発表した事例を子どもの権利に当てはめたとき、どのような権利侵害につながっているのかなど、沼田委員からの様々な質問に対し、子ども会議委員が一生懸命考え、意見や疑問に思うことなどを自由に発言しました。

＜子ども会議委員からの主な意見＞
- 過去にカイロの投げ合いがあったことから、校則を作ったという背景があるみたいだが、カイロを持ってくる人が悪いのではなく、投げる人が悪いと思う。持ってくるのを禁止するのではなく、投げることを禁止するべき。
- 連帯責任は、罰を受ける恐怖に対して皆で規制をすることだと思う。本当にダメな理由を理解したり自分で反省したりする機会が、恐怖によって失われてしまうからよくないと思う。

**テーマ②　家庭での「？（はてな)」(妹が家庭で感じた出来事)**

＜発表概要＞
- いい点をとったらゲームを買ってもらえる約束を守ってもらえなかったのはなぜ？
- 友達と遊ぶ約束をしたのに、いい点をとるまで行けないの？

小林委員が母親役となり、子ども側の子ども会議委員と意見交換しました。

＜子ども会議委員からの主な意見＞

・約束を破った背景に「今後ご褒美目当てで勉強するようになってほしくない」というお母さんの思いがあることはわかったが、約束を破ることで親子の信頼関係が崩れるため、約束を破ることを正当化するのはよくないと思う。
・友達との約束を破ることを強制することで、友達との関係が壊れ、「安心して生きる権利」の中の「暴力差別を受けない、いじめられない」権利の侵害につながる可能性があると思う。

擁護委員のコーディネートにより、両テーマとも多くの意見が出て、議論は盛り上がりました。

来場者からの感想

来場者の皆さんに、本日の感想をお聞きました。

＜来場者の主な感想＞

・父親の転勤の関係でいろんな学校をまわりましたが、当時は連帯責任って言葉がなかったですね。お話を聞いて、私はのどかな時代に育ったのだなと思いました。（女性）
・昔は暴力が普通だった時代がありました。本日皆さんの意見をお聞きして、時代が変わったのを実感しました。（男性）

また、市教育委員会の成田教育長から感想をいただきました。

＜成田教育長からの感想＞

全国の学校を対象とした調査で、青森市は他の自治体に比べ論理的思考力が弱いという結果があったそうですが、本日のイベントを見させていただいて、子ども会議委員の皆さんはそんなことがないことに驚きました。ぜひ今日のような意見交換を、今後も続けていってほしいと思います。

まとめ

最後に沼田委員が、「権利というのはコミュニケーションの道具でもあります。これからも意見表明を大事にしてほしいです。」とまとめ、「青森市子ども会議フォーラム 2019 FOR CHILDREN ～心の声を大人たちへ～」は終了しました。

来場者にご協力いただいたアンケートでは、

・子どもたちが自分たちで青森のことを考えていて、素晴らしいと思った。
・第二部が非常に面白かった。先生方が、子どもたちにいろいろ考えさせる質問をして、子どもたちが一生懸命考えて答えていてよかった。

などの感想をいただき、参加いただいた方に楽しんでいただけたようでした。
皆さん、これまでの準備から当日の発表までお疲れさまでした。